

# 学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

国語科（科目名） 学習指導案

○○高等学校 ○○科 ○○年○組  
 令和○○年○○月○○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

## 1 単元名

◇学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのままりごとに細分化したり整理したりしたものを「内容のまとまり」という。この「内容のまとまり」を踏まえて、単元や題材を設定する。内容のまとまりと、単元や題材との関係は、教科や領域によって異なる。

## 2 単元の目標

◇学習指導要領の「内容のまとまり」の記載事項等を踏まえて設定する。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標（例：～理解できる。等）
- （2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～表現できる。等）
- （3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。）

## 3 本単元における言語活動

◇本単元において中心となる言語活動を示す。ここで示す言語活動と「2 単元の目標」及び「4 単元の評価規準」とを対応させる。また、関連する「科目の目標」を示す。

## 4 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参考に適切に設定する。
- ◇「知識・技能」は「『内容のまとまりごとの評価規準』を作成する際の手順」（上記資料第2編）を基に、該当の単元名や題材名を記載し、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。
- ◇「思考・判断・表現」は「『内容のまとまりごとの評価規準』を作成する際の手順」（同上）を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」は、以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて作成する。その際、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考とする。
  - ①粘り強さく積極的に、進んで、粘り強く等）
  - ②自らの学習の調整（学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を活かして等）
  - ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
  - ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）
 ※①～④に順序性はない。 ※④は言語活動自体を評価するものではない。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（単元の目標に対して） ～理解している。等	（単元の目標に対して） ～表現している。等	（単元の目標に対して） ～しようとしている。等
◇文末を「～している。」として作成する。	◇「思考・判断・表現」は、冒頭に指導する一領域を「（領域名）」において、「と明記し、文末を「～している。」として作成する。（例：「話すこと・聞くこと」において、～表現している。）。	◇文末を「～しようとしている。」として作成する。

5 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

6 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
一	1	◇生徒の立場で書く。	[知識・技能]①	記述の点検
	2		[思考・判断・表現]①	行動の分析
二		◇「評価する内容」には、その時間に生徒の学習状況を重点的に評価する観点を「4単元の評価規準」と対応させて書く。	◇「評価方法」には、「記述の点検」「記述の確認」「記述の分析」、「行動の観察」「行動の確認」「行動の分析」のいずれかを書き、評価規準とどのように照らすのかを明確にする。	
三		◇記録に残す評価の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる。		

7 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「6 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
<p>目標</p> <p>◇単元における本時の位置づけを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習を進めるための手立て</li> <li>・生徒が対話的に学習を進めるための手立て</li> <li>・生徒が学習を深めるための手立て</li> <li>・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て</li> <li>・予想される生徒の反応</li> <li>・資料提示のタイミングや方法</li> <li>・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物等</li> </ul> <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。</p>	<p>◇単元を通して資質・能力を育成する時間を踏まえ、本時の評価規準を具体的に表現する。場面は1、2箇所に絞る。</p> <p>◇評価規準に合わせて、評価の観点・記述方法を具体的に書く。</p>
4 まとめ	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・記述の点検 ・行動の観察 ・記述の分析 等
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇教科書、ワークシート等必要な準備物を書く。